

第4章 大西洋世界の変容とその波及

1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命

★このプリントは授業1時間分の学習に相当します。

1

革命の時代の
開幕

教科書 p. 80-81

Q. 18世紀ヨーロッパの啓蒙思想は、18世紀後半～19世紀前半の諸革命にどのような影響を与えたのか？

☆作業1<知識と理解>教科書を参照しながら、空欄を埋めなさい。

■西ヨーロッパの発展

- ①大西洋貿易の拡大と産業の成長——強力な国家体制の形成，市民層の成長につながる
- ②イギリス——領主の束縛を脱して地主となる農民の出現
- ③フランス——自分で土地を管理経営する富裕な農民の出現

■啓蒙思想

- ①新たな経済思想——〔①〕は『諸国民の富』で〔②〕を批判，経済活動の自由を主張
- ②〔③〕思想——
(ア)18世紀なかばの〔④〕で，〔⑤〕やデイドロラを中心におこる
(イ)〔⑥〕——圧政と不平等を批判，『社会契約論』で市民の意志にしたがう統治の原理を主張
- ③啓蒙専制君主——〔⑦〕・〔⑧〕・〔⑨〕などでは君主みずから啓蒙思想家に学んで国家の改革をこころみる

■改革の動きのもとで

- ①改革への抵抗——貴族領主層は旧来の特権の維持と，土地と農民に対する支配力の強化をはかる
- ②農民の分化——ヨーロッパ西北部では〔⑩〕の浸透で富裕化した農民が出現，一方で土地をもたないまじしい農民も増加
- ③18世紀前半の戦争——諸国の財政支出増大→税制改革や国家体制の強化→貴族の抵抗，市民の反発，農民の反抗，抑圧された民族の反抗

■動揺の広がり

- ①ロシア——〔⑪〕にひきいられる大規模な農民反乱
- ②ペルー——インカ皇帝の血を引く〔⑫〕のスペイン支配への反乱

☆作業2 <知識と理解>教科書等を参照し、以下の表を埋めなさい。

アダム・スミス（イギリス）の自由主義経済思想やフランス革命の啓蒙思想（Enlightenment）のような新しい思想潮流は、今後学習する世界史の「転換点」とも言われる諸革命に影響を与えたとされる。ここでは、それらの思想がどんなものだったのか理解するために教科書を読み込み理解することを目指す。場合によってはネットや他資料を活用しても良い。

<p>①アダム・スミス 自由主義経済論</p>	<p>教科書より-『諸国民の富』にて重商主義を批判し、経済活動の自由を主張した。」 →<u>わかりやすく説明すると？</u></p>
<p>②ルソー 『社会契約論』</p>	<p>教科書より-「圧政と不平等を批判し、『社会契約論』によって市民の意思に従う統治の原理（人民主権）を説いた。」 →ルソーが理想とする政治とはどのようなもの？</p>
<p>③ロック 社会契約説</p>	<p>※教科書には登場しませんが、今後の範囲で重要なのでここにメモ 『統治二論』にて、それまで思想家ホッブスが論じてきた国民が主権を国家に委譲しているという社会契約説を批判し、市民が国家に対して抵抗権、革命権を有していることを論じた。</p>

過去のどのような経済思想を批判し、どのような主張をしたか、それはなぜかを自分の言葉でメモすること。

☆作業3 <応用と分析 mini.>以下の記述と資料から読み取れる啓蒙主義思想の二面性とは何か。

啓蒙主義思想は英語で Enlightenment といわれ、中世的な思想、慣習を打ち破り近代的・合理的な知識体系を打ち立てようとした運動のことである。今後の学習範囲であるアメリカ独立戦争やフランス革命など世界史の転換点ともいえる出来事に大きな影響を与えたといえる。一方で啓蒙思想とは言い換えれば、理性や科学についての知識を持たない無知蒙昧（むちもうまい）な人々を無知から解放してあげようという運動とも言えよう。この点は以下の資料1でも指摘されている。

資料 <出典 山川出版社『世界史リブレット 啓蒙の世紀と文明観』P.5 (2004年)>
ヨーロッパでは、キリスト教的な人間認識が衰退し、人間を「科学的に」とらえる知の大転換が生じていた。「人種」というカテゴリーが登場し、世界のさまざまな民族を、より精密に「客観的に」認識しようとする試みが始まった。同時に、ヨーロッパ外の人々を「いまだ啓蒙されない人々」「未開の人々」とみなす発達史観も浮かび上がる。文明と未開の問題は進歩の理念に陶醉した啓蒙知識人たちによってさかんに論じられた。18世紀末に形成されたこの文明観は、のちの「植民地主義の時代」「帝国主義の時代」の基礎をつくりあげていく。